学校番号	3033

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	(学)倫政講究	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	「倫理」（東京書籍）						
副教材等	『最新　倫理資料集　テオーリア』（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・新課程になって心理学分野は量・質ともに詳細になった。さらに哲学・宗教など思想分野も「私とは？」「社会とは？」を考えたあと「激動の現代社会をわれわれは如何に生きるか？」という観点で生徒みずからが主体的に考える科目になった。
・したがって今,社会に起こっているさまざまな問題について、自分たち自身で考え、対話し,みずからの考えを述べることができる力を養うことを授業の目的としたい。

2　学習の到達目標

・人間としての在り方生き方について、自我・発達・認知などで心理学的アプローチを行い、さらに先哲の思想、代表的な世界宗教、日本思想の内容を偏見なく理解することを目標とする。
・高校生が,世界の諸思想・宗教、日本思想をなぜ今学ぶのか、さらに源流思想や、世界宗教が現代社会に生きるわれわれの生き方にどのように結びついているか、生徒自身が理解し考えることを目標とする。
・世界はますますグローバリズゼーションの波が覆っている。異なる文化や宗教を持つ人たちとの共生、世界全体の福祉向上という視点から平和な社会の構築について、21 世紀を生きる自分たちに何ができるのかを、ペアワーク・班討論などを通じて、主体的・創造的・建設的な提言を構築することをめざす。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的問題と自分の在り方,生き方とに関わる基本的な事柄や，学び方を理解し，その知識を身に付けるとともに,身近な具体例を通して生徒間でペア・ワークなどを行い、生徒が主体的に知識を収集し，適切な情報を適切に選択して，効果的に活用する学び方を身に付ける。	基本的問題として、自分に関わる事柄を挙げ、そこにある課題を見いだし,人間の本質や人間としての在り方,生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し,社会の変化や様々な立場,考え方を踏まえ公正に判断して,その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	基本的問題として自分に関わる事柄に対する関心を高め,意欲的に課題を追究するとともに,社会的事象を総合的に考察しようとする態度、現代社会の一員として平和で民主的なよりよい社会の実現に主体的に参加する態度を身に付け,自分自身の在り方,生き方についての自覚を深める。

上に示した３つの観点に基づいて,学習のまとまりごとに評価し,学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて,それぞれの観点を適切に配分し,評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	人間の心のあり方	第1章 人間の心のあり方 人間についての問い 青年期の課題と自己形成	a　人間とは何か,を考え直す。 人間らしさ、人間の定義を考える。教科書・資料集などから適切な知識を生徒自身に収集・理解させ、みずからを題材に考える力を身につけさせる。 b　人間の心の働きを学ぶ 青年期を考える。「認知」「感情と個性」「発達」を学び、「アイデンティティの確立」について、ペアワークなど少人数のグループで話しあわせ、人間の多様性に気づかせる。 c　他者とともにある能力「思考と対話」を通じ、自己と他者の関係について考える。人が個人であり社会の一員であることを自覚し主体的に考えさせる。	心理学者や思想家研究と考査	課題設定と考査	班別討論など
	さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ	第2章 哲学の形成 ギリシアの思想 宗教と社会 世界の宗教 :キリスト教 :イスラーム :仏教 :中国の思想 :芸術	a　古代ギリシア思想を概観する。なぜギリシアに「愛知」の学が生まれたかを、歴史的背景を調べ、哲学誕生の経緯を理解させる。 また、古代から現代に生きる諸宗教について、多神教風土の日本にいる生徒たちに考えさせ、現代に続く宗教の現況をまとめさせる。 b　哲学・宗教をなぜ学ぶのかを、高校生の視点で考えさせ、古代に起源を持つ哲学・宗教の現代的意味を、話し合いを通じてまとめさせる。 c　日本人と宗教について「日本人は本当に宗教に無関心なのか」を、ペアワークなどを通して、他者の意見を参考に仏教・儒教がなぜ大きな影響を与えたかを考えさせる。	思想家研究と考査	課題設定と考査	班別討論など

後期	さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ	第3章 近代と人間尊重の精神 近代思想の展開「 ヒューマニズム 人格の尊厳と 人倫の思想 社会変革の思想 理性への疑念 人間観･言語観の問い直し 他者･自然とのかかわり	a ルネサンスとヒューマニズムに 人間観・世界観の大転換を果たした 西洋近代思想に関する文献・著書からの抜粋を資料集や学校図書室の蔵書からピックアップさせ、思想を整理させる。 b　近代社会成立に各思想がどのような役割を果たしたかを、その歴史的背景を含めて調べ学習を行う。 社会契約の思想が現代社会にどういう影響を与えたのかを考える。 c　近代思想がどのように現代の社会に影響を与えたのか、もしくは今もどのように影響を与え続けているのかを 現代の世界状況を踏まえて、考えさせ将来の社会を担う人間として、将来社会人として、主体的に意見を述べられる対話力を養わせる。	思想家研究と考査	課題設定と考査	班別討論など
	国際社会に生きる日本人としての自覚	･第4章 日本人の精神風土 仏教と日本人の思想形成 儒教と日本人の思想形成 国学の思想 庶民の思想	a 外来思想流入前の、古代日本人の精神、さらに外来思想の流入・日本的摂取について、国際的な視点から考えさせ、調べさせる。 b　島国である日本にいる高校生に、ワールドワイドな視点で日本思想を理解させ、世界宗教や現代哲学との相互関係について、みずからその差異を調べさせ、考えさせる。 c　現代日本に生きる人間として、現代世界の現況にどう対処するのかを、自分たち自身で考えさせる。これにはバズセッション風の話し合いを取り入れる。	思想家研究と考査	課題設定と考査	班別討論など

	現代の諸課題と倫理	・生命 ・自然 ・科学技術 ・福祉 ・文化と宗教 ・戦争と平和	a 現代の諸課題については、教科書・資料集・各官公庁が発信するHPなどから、必要な資料・データを収集させ、高校生の視点で、諸課題の何が問題点なのか、解決法はあるのか？　多様な考え方がある中でどのように妥協点を見いだし未来世代につなぐのかを考えさせる。 b 課題解決には拙速・傍観とも許されないが、高校生らしい大胆な、たとえ荒唐無稽であっても前向きな意見を持つよう考えさせる。 c 現代の諸課題がテーマなので、様々な事象に対し、社会を構成する一員としての責任感を持って、提言的な結論をまとめる力を養うことを目的とする。	思想家研究と考査	課題設定と講究 考査	班別討論など

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度